



放射線相談室だより 43号 平成30年7月15日

1

広野町～相馬市間の移動時の被ばく線量を測定しました

以前、広野～相馬の移動の際の被ばく線量を紹介しました(26号)。その後の変化を確認するため、今年の7月に再び測ってみました。前回と同じように、行きは国道6号線、帰りは常磐自動車道を通りました。前回は平成28年12月でしたので、約1年半が経過しています。

平成28年12月



平成30年7月



経路上の1時間当たりの個人被ばく線量を色で示しています。比較的線量が高い、赤や黄色の部分が、前回に比べて短くなっています。

◆平成 28 年 12 月◆ 広野町⇄相馬市

	ルート	被ばく線量	所要時間	1 時間当たりの被ばく線量
行き	国道 6 号線	0.39 μ Sv	1 時間 46 分	0.22 μ Sv
帰り	常磐自動車道	0.20 μ Sv	1 時間 21 分	0.14 μ Sv

◆平成 30 年 7 月◆ 広野町⇄相馬市

	ルート	被ばく線量	所要時間	1 時間当たりの被ばく線量
行き	国道 6 号線	0.29 μ Sv	1 時間 45 分	0.17 μ Sv
帰り	常磐自動車道	0.17 μ Sv	1 時間 20 分	0.13 μ Sv

行き帰りともに、前回に比べ、被ばく線量が少なくなったことわかりました。また、比較的線量の高い区域を通過する国道 6 号線の方が、線量の下がり方が大きくなっています。

放射線量が低いところでは、もともとある自然放射線の割合が高いため、放射線量の値の下がり方は小さくなることも、その理由の一つと考えられます。

地図の上に赤く色づけられた場所では、1 時間そこにいると 1 μ Sv 以上の被ばく線量になりますが、実際には短時間で通過してしまうので、表にあるとおり、被ばく線量はそこまで高くなりません。



前の結果と比べると、線量が少しずつ下がってきているのがよくわかりますね。

2

食品のモニタリング結果総括表

(平成30年6月実施分)

【基準値】: 一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	27	27	0	
根菜・芋類	13	13	0	
山菜・きのこ	9	7	2	ゼンマイ(乾) 竹の子
果物	25	25	0	
穀類	—	—	—	
種実類	—	—	—	
魚介類	—	—	—	
加工食品	—	—	—	
飲料水	—	—	—	
その他(肉類など)	2	1	1	山ゴボウの葉
総検査数	76	73	3	

食品モニタリング結果の詳細については、公民館1階の放射能簡易分析センターと放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右のQRコードを読み取ったあと、東日本大震災→放射線量・除染関連→放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所	公民館1階 放射能簡易分析センター
曜 日	月曜日から金曜日(祝日を除く)
受付時間	午前8時30分～午後4時30分まで

3

広野町各地区の放射線量

平成30年7月13日13時30分現在(天候:晴れ)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率(μSv/h)	測定箇所	放射線量率(μSv/h)
広野小・中学校	0.09	広野町役場	0.11
広洋台地区集会所	0.10	高速バス利用者駐車場	0.17
二ツ沼公園 ^{注2}	0.09	上田郷橋付近 ^{注1}	0.16
長畑地区集会所	0.13	北沢複合交差点	0.14
小滝平浄水場 ^{注2}	0.09	県道広野～小高線沿	0.17
ふたば未来学園高等学校	0.07	仮置場	0.12

注1 平成29年3月設置

注2 二ツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地ではnGy/h(ナノグレイ毎時)で表示されていますが、μSv/h(マイクロシーベルト毎時)に換算して掲載しています。

放射線健康対策委員会からの放射線に関するコラム

白いカラスの話

福島県立医科大学医学部放射線物理化学講座 教授 石川 徹夫

6月の終わりころ、青森県で白いカラスが発見されたというニュースがありました。カラスは黒いものと思っていたので少々驚きでした。ただ白いカラスは非常に珍しいものの過去にも何度か見つかっているようです。

では例えば、赤いカラスはいるのでしょうか？赤いカラスがどこかで見つければニュースになりそうなものですが、今までにそのようなニュースを聞いたことはありません。それでは、赤いカラスはいないと断言できるのでしょうか？

これは実は結構難しいことです。なぜなら、赤いカラスはいないと断言するためには、世界中のカラスを調べて、確かに全てのカラスが赤ではないことを確認しなければならないからです。

「赤いカラスがいる確率は極めて低い」とか、「赤いカラスがいるとは考えにくい」と言うことはできても、「赤いカラスはいない」と断言するのは相当難しいことであることがわかりいただけるかと思います。

話は変わりますが、原発事故による放射線の健康影響について、「事故による放射線で健康影響が生じる可能性は極めて低い」とか、「事故による放射線の健康影響は考えにくい」という言葉を聞かれたことがあるかもしれません。

このように少々歯切れの悪い言い方になっているのは、ごく低いレベルの放射線では健康影響がないと断言するのは大変難しいからです。あるレベルの線量を超えて放射線に被ばくすると、がんなどの健康影響が観察されることはわかっている一方、あるレベルの線量以下では健康影響は生じないことを証明するのは大変難しいことです。

「赤いカラスがいなくても証明する」のは難しいですが、今までにカラスを観察した結果から「赤いカラスがいるとは考えにくい」と言えるのと同様に、「事故による放射線の健康影響がないことを証明する」のは大変難しいものの、今までの研究から「今回の原発事故による放射線で健康影響が生じることは考えにくい」と言えることをご理解いただければと思っています。

発行者

広野町放射線相談室

080-9252-4773

広野町健康福祉課放射線健康相談係

0240-27-2113